

2023年5月29日

親愛なる SPJ の皆様、

件名: チョシャビレ・メアリー・グロリア (奨学金受給者) の物語 (2010-2015)

ウガンダのイシングロ地区ルヒーラ村出身の貧しい家庭で育った少女の私にはたくさんの夢があり、その中には質の高い教育を受けることができました。でも、2009年に小学校卒業試験(PLE)を終えた当時、SPJ (当時の名称はミレニアム・プロミス・ジャパニーMPJ) が私を援助してくれる前までその夢が実現するとは思っていませんでした。

私は子供の頃から学校で積極的に活動していましたが、学業への意欲は高く、Ntungu Mixed Primary School と呼ばれる地方の学校で 10 の集合体(部門 1)の 1 年生として優れた成績を得ることができました。これは奨学金受給者になるための前提条件の 1 つでした。

鈴木りえこ理事長と SPJ (旧 MPJ) チームが、奨学金を得るためのインタビューに私の家族を訪ねてきた日、私はどれほど興奮したかを今でも覚えています。まるで昨日のこのようです。

SPJ (旧 MPJ) が授業料全額、お小遣い(10 万ウガンダシリング)、教材費などを提供してくださることにより、私は Maryhill High School という最も質の高い中学・高校に通うことができました。奨学金を提供してくれた SPJ (旧 MPJ) チームに感謝しています。Maryhill High School にて普通レベル (中学校) と上級レベル (高校) の 6 年間勉強したことで、私の人生にプラスのインパクトのあるさまざまな実り多い活動 (以下参照) に携わることができました。

1. 質の高い総合教育
2. 課外活動(スポーツ、バレーボール)
3. 都会の学校の生徒や経験豊富な教師と知識を共有した環境
4. 私の人生を通して与えられた宗教的価値観、誠実さ、そして自己規律を学んだこと

ウガンダのコーディネーターであるローレンス・センクブゲ氏、フラハ夫人、ペニーナ夫人、そして私たちの学問への探求を通して私たち全員を指導してくれた学術部門の他のスタッフにも感謝しています。彼らが学校の休日ごとに私たちに提供してくれたキャリアガイダンスは、私たちが学校で集中して秀でることを可能にしました。学習目的でのコンピューター使用方法を学べたコンピューター学習も忘れられません。

日本からの学生インターンで、Naome さんのような大学生と交流することができ、学校で一生懸命勉強し、優秀になることを目指すインスピレーションをもらいました。

SPJ 奨学金と Maryhill High School で得た総合教育により、私は一生懸命勉強して、マケレレ大学で生物医学検査技術の学士号を取得するための別の奨学金を獲得することができました(政府支援)。大学を 2020 年に卒業し、現在、カンパラの Tenna and Pharma Laboratories と呼ばれる民間研究所で臨床検査技師として働いており、特に新型コロナウイルスのパンデミック中は、優れた診断スキルを活かすことができました。また、感染症研究所と協力してカンパラの新型コロナウイルスの監視を行っており、これによりウガンダ保健省がカンパラの新型コロナウイルス感染の負担を評価することができました。

サックス教授の「極度の貧困は私たちの世代でなくすことができる」という言葉に動かされ、私は、村の若い女の子たちに、貧しい家庭から来ても夢を叶えることができるという呼びかけを行いたいと思っています。多くの人にとって、私は、自分が信じていたことを決してあきらめないという良い例であるとともに、それを容易にしてくれた SPJ の奨学金に感謝しています。

鈴木りえこ理事長、北岡伸一教授、ジェフリー・サックス教授はじめ、SPJ の皆様には、質の高い教育を与えてくださり、ルヒーラ村の多くの若い女の子たちに光を当ててくださったことに心から感謝しています。

私の長期的なキャリア目標は、グローバルな生物医学研究者になることです。機会があれば日本で修士課程の奨学金を取得し、感染症やワクチン開発の研究を行いたいと思っています。ワクチンの開発と発見は、感染症、顧みられない熱帯病、伝染病を予防および制御するための持続可能な基盤であると信じています。

ご支援いただき誠にありがとうございます。

心をこめて。

チョシャビレ・メアリー・グロリア

SPJ 奨学金受給者 (2010-2015)